

問 PCR検査センターの
設置計画を伺う

「新型コロナウイルスの第2波」に備え、当市と当該地区の医師会とでどのような話し合い、連携がなされているか。また、当市を担当するPCR検査センターの設置はどうなっているか。具体的現状を伺う。

答 地域にPCR検査センターが設置された

県は新型コロナウイルス感染症の検査体制を強化・充実するため、県医師会と連携・協力し、地域へのPCR検査センター設置を推進している。当市の医師会が所属する南埼玉郡市医師会によりPCR検査センターが設置され、地域のPCR検査体制が拡充された。

清明会

藤 井 栄一郎 議員
遠 藤 誠 議員
加 藤 一 生 議員

問 経済的支援策について
伺う

- 1.特別定額給付金(10万円)の実施状況は、どうなっているか。また、いつ頃までに、完了する予定なのか。
- 2.商工の2つの支援策、「家賃補助」と「信用保証料の補助」は。

答 国の給付金と
市の補助制度で支援する

特別定額給付金は、6月4日までに2千278世帯に給付した。完了は、9月上旬を見込んでいる。家賃補助は、売上が前年度比で15%以上減少している事業者、信用保証料補助は、4月末日までに県融資を受けた事業者それぞれに10万円を上限として助成する。

問 マスク不足時の
市民の協力について伺う

今般の新型コロナウイルス流行中にマスクが不足となった時、当市で「有志やボランティアによるマスクの製作および寄付」が行われたと聞かすが、それはどういうことが行われたのか。詳細かつ、具体的に伺う。

答 市民の皆様の
御厚意に感謝する

マスク不足の中、福祉施設からマスクを持参できない利用者対応の相談があった。そのような中、ボランティア団体から手作りマスク製作の協力や市民から未使用のマスクの寄附をいただいた。御厚意に感謝し、いただいたマスク約6,700枚を各施設へ配布した。



左から 遠藤、藤井、加藤

問 マスク備蓄の
現状はどうか伺う

「新型コロナウイルスの第2波流行の恐れ、及びその時にまた発生するかもしれないマスク不足」に備え、感染防御に耐えうる、既成品としてのマスクに対する当市の備蓄状況はどうなっているか伺う。マスクのタイプ別の備蓄数量はどういう状況か。

答 新たに購入・備蓄する

不織布マスクは一時的に備蓄がない状況であったが、市内事業者などの寄付による14,800枚の備蓄に加え、新たに36,000枚を購入・備蓄する。また、医療機関向けについては、39,180枚を備蓄しており、新たに42,000枚を購入・備蓄する。

